

月刊 天真

発行日 2025(令和7)年11月1日
 発行者 浄土真宗本願寺派天真寺
 住職 西原恵照
 第584号

一口法話 敬いの心をつないで

副住職 西原 龍哉



私がボランティアで関わる「仏教情報センター」もこの会場で9宗派による合同法要を営みました。出仕したのは、ともに活動するお仲間の僧侶たちです。「仏教情報センター」は、一般の方からの電話相談が主な活動で、私も理事としてお手伝いしており、今回は雅楽を演奏しました。

どんな法要？
 法要はまず真言宗による太鼓と法螺貝の音を合図に始ま



エンディング産業展
 9月に第11回「エンディング産業展」が東京・有明の会場で開催されました。終活業界における日本最大の専門展で、毎年注目度が高く、マスコミ取材も多いイベントです。今回の目玉は、タレントのデヴィ夫人の生前葬イベント。自身がデザインしたド派手な棺からデヴィ夫人自身が登場するという演出で、来場者の注目を集めていました。

り、続いて私たち浄土真宗が雅楽を奏でる中、各宗派の僧侶が入堂です。前半は浄土真宗を中心に浄土系による阿弥陀如来への讃嘆と感謝の法要。後半は日蓮宗を中心に修法の法要で、祈祷・加持などの儀礼が厳かにつとまりました。最後は、全僧侶が揃って「般若心経」を読みフィナーレです。

宗派を超えてー敬い合う心
 仏教と一口にいても、各宗派ごとに經典や教義は異なりますが、今回はそれぞれが大切にしているものを尊重しておつとめました。「お互いを敬い合う」ことの大切さを実感する法要でした。

感謝がつなく笑顔の輪
 先日、99歳の女性のお葬儀に伺いました。娘さんが「母に最後に『一生懸命育ててくれてありがとう』と伝えられた」と話してくれました。お母さんはみんなに愛され、喧嘩の後でもすぐに笑顔を見せてくれるような穏やかなお人柄でした。施設に入所後も、職員さんにお世話になる



たびに手を合わせて「ありがとう」と感謝を伝えていたそう。お母さんのまわりにはいつも笑顔の輪が広がっていたといひます。感謝の心は、人と人を結ぶ大切な絆です。

おかげさまの感謝
 お念仏でもお題目でも、言葉は違えど、それは感謝を伝える心のあらわれです。その思いは、一つの道につながっています。お互いに敬い合うことを、仏さまが教えてくださっています。

11月23日「おかげさま報恩講」の法要を営みます。皆さまとご縁の中に生かされていることに「ありがとう」「おかげさま」と感謝の心でお参りできたらうれしく思います。合掌



法要のこ
 様子はか
 ちらご覧
 さい

今月の予定

2025年 11月

日	月	火	水	木	金	土
						1 10:00納骨堂合同参拝 13:30グランドゴルフ
2 7:00日曜礼拝 ●	3 文化の日	4	5	6	7	8 9:00～12:00 おみがき
9 7:00日曜礼拝 ●	10	11 報恩講(築地本願寺) ～16日まで	12	13	14	15 13:30グランドゴルフ 通夜布教(副住職・築地本願寺)
16 7:00日曜礼拝 ●	17	18	19	20	21	22
23報恩感謝の日 7:00日曜礼拝 ● 13:00入門式 13:30おかげさま報恩講 ●	24 振替休日 ※ 役員さんには12時にご集合をお願いいたします	25	26	27	28	29
30 7:00日曜礼拝 ●						<来月の予定> 12月20日1時半 法話会 <来年の予定> 令和8年1月1日14時 元旦会

● 印がついている行事はオンライン配信します。天真寺HP、またはこちらから
 →<http://www.koumyou.net/tenshin>

お寺の行事は
 このQRコードから
 オンライン参加
 できます



天ちゃんの一言

- 門信徒会入門式にご参加ください～11月23日 午後1時～1時半
 新しく天真寺のお仲間になってくださった方をお迎えする式です。対象者にはご案内を出しております。ぜひご参加いただき、仏さまのご縁を一緒によこびましょ。【贈呈】記念念珠・門徒式章
- 現在「大町やすらぎパーク」に数区空きがあります。ご希望の方はお寺までご相談ください
- 「天真寺門信徒会」 仏さまのお話を聞き、お念仏申す豊かな人生をともに歩みましょ
 毎月 寺報と仏教冊子を送付し、法要や法話会のご案内をしています。
 お寺の行事はすべて参加自由です。仏さまのみ教えを聞いて、確かな人生の拠りどころを見つけませんか。
 年会費:3千円 会費振込先:ゆうちょ銀行「天真寺門信徒会」00130-6-567186
- ホームページでお寺の日々を綴っています「天真寺通信」tenshin.or.jp/

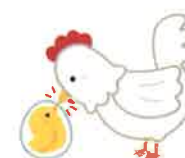


入会随時募集
門信徒会
 に入りませんか



お寺の掲示板の言葉

一切は
 縁によりて 生まれ
 縁によりて あり
 縁によりて 去る



浄土真宗
 本願寺派

天真寺

〒270-2251
 千葉県松戸市金ケ作106
 TEL 047-389-0808
 FAX 047-389-0809
www.tenshin.or.jp



おかげさま 報恩講法要

【日時】 **11月23日** (日・勤労感謝の日) 午後1時半～3時半

【次第】 おつとめ「正信偈」・法話・茶話会

【講師】 **西原龍哉** (副住職)
名種木乃実 (天真寺衆徒・本願寺派布教使)

【場所】 天真寺本堂 (椅子席)

どなたさまも
ご自由にお参り
ください
参加自由
予約不要です

浄土真宗にとって、もっとも大切な仏事です。親鸞聖人のご命日をご縁として、私たちを救ってくださる阿弥陀さま、そして親鸞聖人をはじめ先立っていかれた方々のお導きによってこの私が念仏のみ教えに出会い、生きる依りどころをいただいているご恩にお礼を申しあげる法要です。

「恩」とは「なされたことを知る」といいますが、私たちはそれをどれほど知っているのでしょうか。「仏恩」(阿弥陀さま)、「師恩」(阿弥陀さまの教えを伝えてくださった親鸞さま)、「父母恩」(育ててくれた両親)、「社会恩」(まわりの人々や環境など)と仏教でもたくさんの恩を教えてください。賜った恩は、返しきれないほどと気づかれます。このたびの法要では、受けたご恩に感謝し、ともにお念仏申しお参りしましょう。

お寺の秋のご報告



9月23日(秋分の日) 10時半「やすらぎ堂秋彼岸法要」 13時半「天真寺秋彼岸法要」

朝晩にやっと涼しさを感じるようになった今年の秋のお彼岸です。午前は永代合葬墓「やすらぎ堂」での法要。午後からは副住職の笙(しょう)と天真寺で雅楽を教える弘山先生の龍笛(りゅうてき)の豊かな音色が本堂に響く中、厳かに法要を営むことができました。ご法話は広島福間先生で、人生の悩みや仏教のことなど参拝者の質問に丁寧にお答えいただきながら、仏さまのあたたかな慈悲のお心を聞かせていただきました。参拝の皆さま、ご尽力いただいた役員の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

10月10日(金)

11時半 お寺に集合「芝生でランチ」

秋晴れの気持ちのいいお天気に恵まれ、お寺の近くの「21世紀の森の広場」へ門信徒会のお仲間同士で出かけました。美味しいお弁当に話はずみ、皆さんとの親睦が深まりました♪

よくお願いします お寺の仏具磨き「おみがき」 ～ご協力をお願いいたします

報恩講を迎えるにあたり、本堂の仏具のお磨きを行います。多くの方にお手伝いいただけると大変助かりますので、ぜひご協力をお願いいたします。

【日時】 **11月8日(土) 午前9時～12時** (昼食の準備があります)
 椅子席での作業です 汚れてもいい服装でお越しください 雨天決行です

築地本願寺報恩講
「通夜布教」にお参りませんか

親鸞聖人がお浄土へお還りになる前夜、末娘の覚信尼(かくしんに)さまをはじめ門徒らが集まり、ともに仏さまのご恩の深きことを夜通し慶ばれたことから、15日から16日の朝にかけて、仏さまのみ教えをいただくのが「通夜布教」です。

今年は副住職が16日 早朝3:20～4:00(40分1席)に法話をします。

深夜の休憩には親鸞聖人が好まれたという名物の「小豆粥」が振舞われます。

〈場所: 築地本願寺 聞法ホール〉
 参拝自由・参加無料



天真寺のYouTube「天ちゃんねる」では、法要や法話会、日曜礼拝などを生配信しています。お寺のHPからもアクセスでき、後からでも見られますので、お家でもお聴聞ください。チャンネル登録もよろしくお願いします。

「読経に健康改善効果あり」～お経を読みましょう

「読経」することにより、呼吸機能や咽喉頭機能の改善、精神的健康の改善、社会活動満足度の向上といった効果が確認できるとする研究結果が発表されました。大正大学と東京都健康長寿医療センターとの共同研究で、お腹から大きな声で高らかに響かせ、口をダイナミックに使って読経することで、誤嚥性肺炎の予防効果が期待される。また、読経に僧侶が加わると、読み方のコツやお経の意味などにも関心が寄せられたり、大勢で一緒にすることで喜びや爽快感を得る参加者も多かったとのこと。(2025.10.1『中外日報』)

いつもの読経に、このような身心ともに健康効果があるとは驚きですね。ぜひ皆さんも一緒に大きな声でお経を読んでみませんか。お寺の法要や法話会では、いつもお経を読んでいます。



ちなみに…天真寺では10/17常盤平地域包括支援センターの活動に協力し、「読経会」を開催しました。参加者は介護をしている方が中心のため、日々の慌たしさから少し離れ、心を静めて自分を解放する時間をお寺で過ごしていただきました。今回は7/18に続き2回目の開催で、「読経」の後には「写経」にも挑戦しました。次回は令和8年2/27を予定しています。